令和7年度 第1回宝塚ボランタリープラザ zukavo 運営委員会 要旨

令和7年4月18日（金）13:30～15:00
ぷらざこむ1 24会議室

内容
1.開　会
1．2開会
2．運営委員任期満了に伴う交代について
・委嘱状交付
・事務局異動について

3．協議事項
（1）　運営委員会副委員長：平尾昌也氏を選出
（2）　配分委員：中山光子氏を選出

4．報告事項
（1）令和 7 年度 zukavo 事業計画について：事務局より資料に基づき説明
・令和4年にボランタリープラザに名称変更し、3つの柱と7つの目標を掲げて運営している
・令和6年度事業報告
① 民間事業者と zukavo、ボランティアグループ等のつながりづくりの推進
株式会社光洋と共催イベント、フードドライブ、地産地消プロジェクト、たくわえ亭
② 災害ボランティアセンター運営に関するネットワークづくり
青年会議所の定例会参加、災害ボランティア講座・訓練の実施（3/20）
③ 被災地支援をボランティア活動者とともに行う
④ ボランティア活動者に向けた講座、交流の場を行う
⑤ その他　小学生ボランティアクラブ、セルフヘルプグループ交流会、災害×セルフヘルプ講座（セルフヘルプグループのことを知らなかった、災害時の配慮が必要などの意見が出た）、福祉学習プログラム体験会

(2)財団法人プラザ・コム 事業承継の合意書・協定書の締結報告
・3 月末で公益財団法人プラザ・コムが解散、4 月より清算法人に移行した
令和 7 年度前期は清算法人が事業を行い、夏から秋ごろに引き渡しを完了する
その後、財団の理念「すべての人にとって暮らしやすい街や社会を、市民の力によってつくる」を継承し、ぷらざこむ1は社協 zukavo が運営する

5．その他

【ボランティア活動の促進について】

〇勤労世代の地域参加について

・働く世代を地域活動に参加してもらうことが宝塚市の課題である。「勤労世代向けボランティア交流」の内容を知りたい

→（zukavo より）勤労世代向けについて報告。9月3月に実施し、各3名、2名（1名残業のため欠席）の参加があった。その後活動につながったケースもある

〇ボランティアを取り巻く環境の変化

・平日働く保護者が増え、学校のボランティアが集まらない

・働き方の変化があり、在宅ワークの勤労世代が愛護部の活動を行うことや PTA 活動に参加することも増えてきた

〇ボランティアをキャッチする

・コロナ後、また災害が多いからか、地域に出たいという方が増えているように感じる。何かしたい、つながりたい、と思う方をキャッチする必要がある

・はじめは単発ボランティアが参加しやすいのではないか

・ボランティアのマッチングアプリがあれば、ボランティアのきっかけが増えるのではないか。

〇個（単発）の活動から継続の活動へ

・「ボランティアして楽しかったな」の先を用意しておく必要がある

・会社側も地域活動への参加を応援する機運が必要

・グループに属しているボランティアだけがボランティアではなく、ボランティアという意識で無く、個別に自主的に行っている活動（登校の見守りなど）もある。そういう人を見つけて、継続的な活動につなげる

【災害ボランティアセンター・福祉避難所について】

〇福祉避難所の周知の必要性

・福祉避難所について、どんなところか知らない人が多い

・セルフヘルプグループからも福祉避難所に何があるのか分からないとの意見がある

〇市と関係団体の協議の場の必要性

・地域と高齢者施設の合同の避難訓練をした事例もあるが、市とも連携した方がよい。

【その他】

・宝塚市地域福祉計画（第 3 期）が今年度終了し、第 4 期計画を策定作業に入っている。その中でボランティア活動に関するアンケートを行う予定である。

・福祉学習プログラム集講師交流会実施

・ボランタリー活動助成活性費審査会調整中。ホームページで日程公開予定

次回運営委員会日時：7 月下旬～8月上旬に開催予定。